

愛知県自然環境保全地域

白鳥山



愛知県自然環境保全地域とは

わたしたちが、健康で文化的な生活を享受していくためには、単に物質的な豊かさのみでなく、自然とのかかわりの中で、豊かな精神性を養うことが必要です。自然は、生命をはぐくむ母体であり、単に経済活動のための資源としての役割を果たすのみではなく、それ自体が豊かな人間生活に不可欠な役割をもっています。

このため、自然環境保全施策の基本となる法制度として国においては昭和47年に自然環境保全法が、愛知県においては、昭和48年に自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例が制定されました。

愛知県自然環境保全地域は、この条例によって指定されるもので、すぐれた天然林や貴重な動植物の自生地などの貴重な自然環境を有する地域を、将来にわたって保全しようとするものです。



白鳥山の自然

白鳥山は北設楽郡津具村の東南部、津具川左岸にほぼ独立してそびえる標高968mの山塊です。山麓には白鳥神社がありその参道沿いには老齢のヒノキとツクバネガシ、ヤブツバキ等の常緑広葉樹類がみられます。中腹の標高850m以下はスギ・ヒノキ植林地ですが、それより上部は石英質の片麻岩等からなる岸壁、急傾斜地が多いので、植林が進まず自然林が残されました。

また、地質面では、稜線付近の岩体に小規模な晶洞が点在して、その中に水晶を産出するという特異な自然環境を形成しています。

白鳥山の地質

白鳥山がある津具村の基盤岩は、中生代白亜紀（約6000万年～7000万年前）にできた片麻岩や花こう岩からできています。これらの岩石の上には新生代第三紀中新生（約1600万年前）に海底に堆積した砂岩や泥岩がのっており、また、それらを貫いた安山岩や玄武岩質の火山岩が見られます。また、この火山活動の時にできた金の鉱床もあり、この地方は昭和20年頃までは金の採掘が行われていました。

白鳥山は、全山が石英質の片麻岩からなっています。岩石のところどころに空洞があり、そこには水晶がたくさんできています。

水晶というのは、石英の結晶がまわりからじゃまされることなく成長したときにできるもので、六角柱状で互いの面のなす角度は120度になっています。

結晶ができている空洞を晶洞と言います。



白鳥山山頂



片麻岩



水晶



晶洞中にできた水晶

白鳥山の植生

標高750mの山腹に白鳥神社があり、参道沿いには老齡のヒノキのほかツクバネガシ、ウラジロガシ、リンボク、ヤブツバキ、ヒサカキ等の常緑樹類が生育しています。参道下部の村道傍に生えるオオキツネノカミソリは県内稀産種のひとつです。

標高850m以上の急斜面・岩角地にはモミ、ツガ、ヒメコマツ、コウヤマキ等の針葉樹が優勢で、その下層には乾燥環境に耐えるツツジ科低木が多種生育しています。チチブドウダン、コアブラツツジ、アクシバ、ウスノキ、ハナヒリノキ、アセビ、ミツバツツジ、トウゴクミツバツツジ、モチツツジ、パイカツツジ、ウスギヨウラク、ヒカゲツツジ、ホツツジ等です。また、点在する岸壁に着生してオオミミゴケ、タチハイゴケ、イワダレゴケ、コセイタカスギゴケ、ミヤマクサゴケ等、白鳥山が唯一の、または白鳥山のほか2～3の地域のみを産地とする蘚類が見られます。寒地性のタチハイゴケ等は亜高山帯針葉樹林の林床に大群落を作るものですから標高1,000m以下の産地に生育するのは珍しい現象です。南面の岸壁に着生する地衣類のイワタケも県内稀産種です。一方、岩角地に生育するコウヤマキは日本特産種で、主に関東以西の本州、四国、九州に分布しますが、愛知県では北設楽地域にのみ見られます。特にコウヤマキが群落をなすのは、白鳥山のほか津具村の水梨川上流、設楽・鳳来町界の山稜部等のきわめて限られた箇所しかありません。

白鳥山の動物

白鳥山の山頂のくぼ地には、小さい沼地があります。ここにイノシシがやってきて、からだに泥をこすりつけ、皮膚についたダニなどの寄生虫を取ります。このような場所を“ぬた場”と言います。また、この沼地には県内では稀産のルリボシヤンマの生息が見られます。



ぬた場



ぬた場に残されたイノシシの毛



オオキツネノカミソリ (ヒガンバナ科)
白鳥山では8月中旬に花を咲かせます。キツネノカミソリに比べて雄ずいが花びらより長いのが特徴です。



ハナヒリノキ (ツツジ科)
和歌山県以北の本州～北海道に分布する温帯性低木です。葉の粉末が鼻に入るとくしゃみ(はなひり)が出るから名付けられたといわれます。



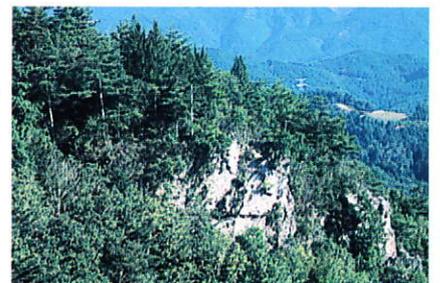
タチハイゴケ (蘚類ヤナギゴケ科)
亜高山、高山帯にひろく分布する大型の蘚類です。愛知県では、白鳥山、茶臼山、面の木峠西方、段戸山にのみ生育が知られています。



イワタケ (地衣類イワタケ科)
岸壁等に着生します。広く北海道～九州に分布しますが古来不老長寿薬として珍重され今でも食用とされるので普通では見られなくなっています。



フジシダ (コバノイシカガマ科)
岸壁下の岩屑斜面等に群生します。フジの名前は愛知県犬山市の尾張富士山にちなむものです。



岸壁上のコウヤマキ群落
コウヤマキは白亜紀に出現して北半球に分布をひろげたものですが、現在では地球上で日本の西半部にのみ生き残った日本特産種と考えられています。

ご 注 意

自然環境保全地域内では、鉱物の掘採、動植物の捕獲・採取等が規制されています。水晶等は観察するだけにしてください。

しろとりやま
愛知県白鳥山自然環境保全地域の保全計画

(昭和54年3月2日指定)

指定理由

白鳥山(標高968メートル)は、領家変成岩より成り、全山にわたってその変成岩中には晶洞がみられ、その中には水晶を産出する。

比較的数少ない植生であるヒメコマツ、コウヤマキの群落が発達する。ここに生育するオオミミゴケ、イワダレゴケ等の寒地系のコケは、主として中部以北の亜高山帯に分布するもので、現在のところ本県では白鳥山が唯一の産地である。

昆虫では、県内稀産のルリボシヤンマを産する。

したがって、これらの貴重な自然環境を保全するため、自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例第20条第1項第2号の地形若しくは地質が特異な地域、及び同項第4号の植物の自生地、野生動物の生息地として愛知県自然環境保全地域に指定するものである。

保全計画

1 保全すべき自然環境の特質

(1) 植生

岸壁には、オオミミゴケ、イワダレゴケ、タチハイゴケ、コセイタカスギゴケ、ミヤマクサゴケの寒地系のコケが生育していて、本県では白鳥山を唯一の産地とするものがある。また、ツツジ科の植物を豊産することは特筆に値する。

主稜部を主に、ヒメコマツ、コウヤマキの群落が発達しており、これは県内においても数少ない群落のひとつである。

白鳥山神社参道付近には、暖地的要素の強いリンボクが生育する一方、林床にはナライシダなどの温帯性の植物も繁茂し、暖温両帯の性格を示している。また、林縁にはオオキツネノカミソリのような稀産の種も生育するなど植物生態的に貴重な地域である。

(2) 野生動物

頂上の小沼には県下稀産ルリボシヤンマを産する。

(3) 地形・地質

白鳥山は全山領家変成岩からなり、特に頂上部は、その中に水晶の結晶を産する。

このようなところは、県内では他に例がない。

2 面積

特別地区 (全域 野生動植物保護地区)	普通地区	合計
5.71ha	7.90ha	13.61ha



白鳥山自然環境保全地域区域図



所在地 北設楽郡津具村字白鳥他

問い合わせ先

愛知県環境部自然環境保全室

名古屋市中区三の丸3-1-2
電話 (052)961-2111(代)

愛知県設楽事務所森林整備課

北設楽郡設楽町大字田口字小貝津6-2
電話 (05366)2-0544(代)

津具村建設課

北設楽郡津具村字見出原33-1
電話 (053683)2301(代)

※このパンフレットの作成にあたり落合主次氏(中日本航空(株)・県自然環境保全審議会専門委員)、菅谷義之氏(県自然環境保全審議会専門委員)のご協力を受けました。

